

第1回柴又観光まちづくり検討会 議事録

日 時：令和3年11月25日（木）午後6時～午後7時30分

会 場：旧川甚 新館

出席者：石川委員、宇野委員、熊倉委員、齊藤（勝）委員、齊藤（國）委員、下田委員、
須山委員、瀬尾委員、徳増委員、早崎委員、吉本委員（五十音順）11名出席

事務局：中島観光課長、目黒都市計画課長、加納生涯学習課長、小西観光担当係長、
澁谷観光担当係長、浅倉都市計画担当係長、戸上郷土と天文の博物館長、
観光課職員、郷土と天文の博物館職員、株式会社KITABA

議 題：（1）委員の選出について
（2）検討会の進め方について
（3）川甚跡地活用に向けて
（4）検討会の開催スケジュールについて

<事前送付資料>

【資料1】柴又観光まちづくり検討会設置要綱

【資料2】柴又観光まちづくり検討会傍聴規程（案）

【資料3】トークセッション「葛飾柴又の魅力・再発見」の開催報告について

【資料4】第1回柴又観光まちづくり検討会資料

【資料5】柴又観光まちづくり検討会の開催スケジュール

1 開会

2 挨拶

3 議事

（1）委員の選出について

会長は、「柴又観光まちづくり検討会設置要綱」に基づき、委員からの推薦により宇野委員を選任。また、副会長は、宇野会長の指名により吉本委員を選任。

（2）検討会の進め方について

事務局より、資料2について説明

宇野会長： ただ今の事務局からの説明につきまして、ご質問等ございますでしょうか。
特に無いようですので、「柴又観光まちづくり検討会傍聴規程」について、
本日付けで決定といたします。

（3）川甚跡地活用に向けて

事務局より、資料3について説明

宇野会長： ただ今の事務局からの説明につきまして、ご質問等ございますでしょうか。
特に無いようですので、次に、資料4「第1回柴又観光まちづくり検討会資料」
について、事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局より、資料4（1～4頁）について説明

宇野会長： ただ今、事務局から、柴又の現状や川甚という場の持つ意味など、今後検討を進めていく上での前提条件となる諸要素について、ご説明をいただきました。これを整理し、皆様に議論いただくための素材となる資料として、最後の5頁目の資料をご用意いただいております。こちらの資料について、事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局より、資料4（5頁）について説明

宇野会長： 川甚の跡地につきまして、そのあるべき姿や活用の方向性など、皆様のご意見をお聞かせいただきたいと思っております。本日は初回ということで、皆様のご意見やお考えをざっくばらんにお聞きしたいと思っております。

委員： 山田洋次監督が撮影している時、江戸川の土手の上で寅さんが寝転んでいるシーンがありましたが、映画のシーンにもあるように、川は帝釈天から見ると裏になるが、表でもあり、そこを大事にしたいと思っています。帝釈天の門前は200mくらいしかないのですが、同じ距離が裏にもあります。昔は川から上がってくる人もいましたし、今でも車やバスで来る人がたくさんいます。川甚の場所は裏でありながら表の部分もあり、柴又の入口だということです。

私はこの2年間、様々な寺社を見てきました。鎌倉や寒川神社、道了様、善光寺、高尾山などを回りましたが、コロナ禍でも神社やお寺の方、地元の方、皆さんがとても努力していると感じました。善光寺では、商店街の方が去年はコロナで厳しかったが、今年の春は少し客が増えてきたようで、今日も行ってきましたがとても人が多かったです。日本人の方ばかりで、ほとんどの車が近県の車でした。お坊さんが元気に出迎えてくれ、お寺さんが出迎える気持ちで活力があると感じました。

善光寺の隣の長野県立美術館では、東山魁夷さんの絵画展が行われていました。真っ白な建物でした。屋上テラスからは善光寺を真横に見ることができ、この景色が良かったです。山田監督が、土手の上から帝釈天の壘が見える風景を大事にしたいと言ったことを確認しました。

善光寺のように、お寺さんがお出迎えをしてくれるのは、見習わなければいけないと思えました。訪れる方も出迎える方も気持ちがいいと思えます。

委員： 今回の検討でどのような拠点にしていくのかを決めていきますが、江戸川と人の流れをうまく使い、作っていくかを考えていけると良いと思えます

宇野会長： 土手から見える風景を生かしていくことは重要だということですね。

委員： 川甚が営業していた時は、柴又での食事は1時間に600食くらいのキャパシティがありました。川甚の閉店によってこれが減ってしまいます。そういう意味でも川甚が担っていた役割は大きかったと思います。今後を考えた時、食事ができる・できないによって、柴又の魅力も左右されるのではないかと考え

ますので、食事という視点からも考えていきたいと思えます。川甚の閉店後、柴又での食事の流れが変わってきています。コロナが収束した後、団体客がどこで食事をするかという話になり、正月などはキャパシティが足りないということになってしまいます。

柴又の川魚料理という文化にも、川甚は大きく関わってきたと思っています。文豪が訪れて川甚で作品を書いたといった歴史的な意味も含めて、柴又の文化を語る場所としての役割を残していただきたいです。

川魚料理は非常に少なく、食べる方も減ってきています。文化としての川魚料理を含めて、川甚の存在をうまく引き継いでいくと、柴又の魅力にも繋がっていくのではないかと思います。

映画の中に、度々川甚が出てきています。川甚は車で柴又に入ってくる際のランドマークのひとつになっています。古い方の建物は、安全性の問題を考えると残すことは無理があると思えますが、ここから柴又が始まるよというランドマーク的なものを考えられたらと思えます。

川甚前の通りは、通称「川甚通り」と言われています。できれば川甚という名前を、「山本亭」のように残していただけるとありがたいです。寅さん記念館が開設した当時はすごい入場者数でしたが、年々山本亭が追い付いてきています。長期的な視点で見れば、川甚の名前と文化を残すことは意義深いものがあると思えます。

私たちは、「変えない開発」と「一店一品」をテーマにしています。「一店一品」は、川甚でいうと川魚料理です。「変えない開発」とは建物のことですが、残念ながら柴又駅が工事で変わってしまいました。「たなかや」さんも変わり、柴又街道も拡幅され、これで川甚が変わるとなると、「変えない開発」というものの危機となりますので、「変えない開発」を考慮していただければと思えます。

委員： 観光地としてこれからも続けていく上で、人というのはすごく大事です。誰をターゲットにした観光地にするかという、老若男女国籍問わずだと思えますが、ITが進んでいる中では「映え」は避けられないものだと思います。

どうせやるならばすごいものを、例えば天空の日本庭園として、公道をまたいで駐車場側まで作るみたいなものができると思いいます。船宿は難しいかもしれませんが、高い所から川を見ながら川魚料理を食べられるなどができるのも良いかもしれません。

川甚のブランドは、絶対に残すべきだと思っています。イノベーションという新しいものを創るという言葉がありますが、ニューコンビネーションという、今あるものをどう組み合わせる新しいものを作っていくかという視点で考えるべきだと思えます。

川甚周辺で見ると、宿が足りないと思えます。この新館は宿に適していると思えます。宿の名前も川甚とすれば、川甚通りもそのままの名称でいけるのではないのでしょうか。宿泊機能と参道の延長線にある建物としてのインパクトが必要だと思えます。

委員 : 宿泊施設を作るのは、厳しいのではないのでしょうか。

宇野会長 : いずれにしても川甚というブランドを残すことは重要だということですね。

委員 : 先週、柴又に来たことがないという友人を寅さんサミットに連れて来ました。鰻を食べて寅さん記念館へ行きましたが、参道から帝釈天の脇を通って寅さん記念館へ行くには、女性の足では疲れると感じました。参道から寅さん記念館へ行き、土手まで行って同じ道に戻り、お団子を食べました。一方通行でしかないので、川甚へ行くには、参道から寅さん記念館へ行き、そこから川甚まで土手を通って来られると良いと思いました。

参道が江戸の良い雰囲気なのに、帝釈天参道の一本西側の通りは近代的な住宅街なので、興奮めしてしまうと思いました。川甚に行くには、帝釈天の東側を通った方が、ワクワク感があると思います。

川甚が宿泊施設になったら泊りに来たいと思います。ワークスペースや川を見ながら鰻を食べられたら良いと思いますが、駅からの距離が気になります。

川魚料理は、友人と一緒に初めて鯉料理を食べました。食べたことがないものを食べられるのは魅力の一つだと思います。都内に住んでいると、銀座や渋谷、歌舞伎町などどこでも行きやすいですが、川魚料理は柴又でしか食べたくないと思います。柴又のような歴史あるところだからこそ食べてみたいと思うもので、「映え」にも繋がると思います。写真を撮れるロケーションが多いところが柴又の魅力だと感じています。

柴又は、動線が良くないと感じます。柴又全体に案内を設置してうまく誘導できると良いと思いました。

宇野会長 : 柴又は歩いて楽しいまちですが、一步入る所を間違えると住宅街になってしまうこともあるかと思います。

委員 : 私は、柴又は参道がとても混んでいるイメージがあります。しかし平日来ると意外と空いているので、平日が狙い目だということに気が付きました。日本人観光客は土日に集中しますが、外国人観光客は平日が空いていることを知っているなので、誘致が可能になれば平日の集客に繋がると思いました。外国人観光客はSNSを活用して「映える」場所を探しています。魅力が発信され、世界中に情報が拡散されるのでチャンスがあると思います。外国の方は日本に来て、日本の物を食べて、日本を感じたいという方がとても多いので、これから国が開けてチャンスが来ると思うので、今が検討に良い時だと思います。

外国人観光客は客単価が高く、1グループの人数も多いです。英語が通じないなどの問題も出てくると思いますが、今は英語が通じない観光地が少ないので、逆に英語が通じない昔ながらのまちとして見せるのも面白いと思います。

私自身、夜の柴又に来たことがないのですが、帝釈天が閉まるのが早く、夜が楽しめないイメージがあるので、それにより日中に混んでしまうのかと思います。ディナータイムにもお客さんを分散できるよう、夜の魅力を作っていくのも良いと思います。

私は地元で生まれ育ちましたので、地元の声をたくさん聞いてきました。川甚は結婚式をした思い出の場所であるとか、遠方から友人が来たら必ず川甚でもてなしたなど聞きました。そういう時代の写真を飾るなど、地元の人のおいも残すことができるのと良いと感じています。

地元の子どもが竹とんぼや凧を作って遊んだり、葛飾区の魅力的な伝統産業を体験したり、地域の人も外国人観光客も楽しめる場になると良いです。体験をした方には矢切の渡しの無料チケットを渡すなどすると、回遊にも繋がると思います。

外国の方は銭湯や御朱印が好きなので、そういったものに触れる機会があると良いです。また、宿泊場所があれば、葛飾区内には相撲部屋などもありますので、1泊2日を十分に楽しめると考えています。寅さんは外国の方には通じないこともありますが、それ以外にもいい所がたくさんあるので、外国の方に伝えていければと考えています。

宇野会長： 特に外国の方はSNSをかなり活用されていますね。

委員： 柴又は夜閉まるのが早いというお話がありましたが、実は今から20～30年前は21時や22時までやっていました。葛飾区に大きな工場があったりしたので、夜は川甚や参道の飲食店に宴会でお客が多く来ていました。そういう大きな会社がなくなったことで、宴会が減り、夜閉まるのも早くなってしまいました。川甚跡地で夜間の活用ができれば、また夜の賑わいが出てくるのかなというのがあります。

まちづくりについて回遊路の話が出ましたが、何年か前に回遊路を整備しました。柴又が良いまちだというイメージが大きくなると、それに伴って住む方が増え、住宅が増えていきます。これまで駐車場だったところに住宅やマンションが建つということが現実としてあります。今回の文化的景観選定を機に、参道の部分については強い規制をかけ、その周辺も波及効果的に少し抑えていくようなことが必要と考えています。例えば建物の外観もあまり近代的でないまちに馴染むようなものにできると、まちも良くなっていくと思います。

京成電車がタイムトンネルのような役割を果たしています。日暮里から乗車すると、川を渡るたびに建物が低くなっていきます。隅田川、荒川を越え、最後の中川を越えるとほとんど高い建物がなくなり、2～3階建ての建物ばかりで、柴又駅を降りるとまさに昭和の時代に戻ってくるタイムスリップの道具のようになっています。京成電鉄を利用することで新たなツールもできると思うので、そういった部分も考えていけたらと思います。

委員： 柴又というのは、第一のリングと第二のリングに括られてしまったため、それ以外の所の興味が薄くなりました。新柴又駅から帝釈天までの道中に帝釈天のお墓がありますが、新柴又駅が出来た時、この脇を通って帝釈天の横手に出るコースを考えました。柴又というのは一般の人が生活しているまちというのを一つの特徴として捉えて、もう少し大きなエリアを歩いていただけるようにすることが大切です。住宅街、農家のような大きな家、そんな生活する人の変

化を歩きながら見てもらえないと、柴又はこれから伸びないと思います。

川甚の建物は、土手に面して広いスペースがあります。それを来訪者に見てもらい、そこで遊んでもらいたいと思っています。また、専門の建築家にきちんと見てもらって、こちらの意見を伝えて検討していく必要があると思います。素人ではまとまらないと思います。何を自分達の特徴にするか、来る人が何を求めているかを理解しなければいけないと思います。川甚の土手側の面はかなり長いため、その面を総ガラス張りにして、土手を一望できる景色がほしいと思います。そこにカフェや食堂が入ると良いと思います。見晴らしが良い建物にしたらどうかと思います。

屋上から土手に降りられるようにできると良いと思います。河川管理的に許可が下りるかは分かりませんが、川を見ながら飲んで食べて、江戸川や松戸の森を見て、そこから川へ降りていくというスケールの建物にできたら、駅周辺から川の方へ人が流れてくると思います。できれば「川甚橋」として人しか通れないような橋が架けられたら良いと思います。そのくらい大きなスケールで考えて、この土地を活かしていければ東京の名物になると思います。

委員： 河川については国の事業になるので、難しいのではないのでしょうか。

委員： できる・できないは別として、そのくらいのスケールを頭に描いて検討していければ良いと思います。

委員： コロナ禍で改めて思ったのは、なかなか繋がれない中、繋がりということがとても大事で、繋がりたいと思っている方が、また柴又に戻ってきてくださっていると感じます。私は柴又で生まれ、一度離れて改めて柴又に帰ってきた時、「ああ、帰ってきたな」という感じがありました。多分、全国の方が柴又に来ると「帰ってきた」という感覚を持っていただけるのだと思います。浅草との違いは、真正面に帝釈天があるのではなく、苧びす家さんの前から信号を渡り、歩き進めると段々と帝釈天が見えてくる、この絶妙な角度に「帰ってきた」という安堵感があり、そんな所を感じて柴又に帰ってきてくれる方が多いのだと思います。そう思うと、一発の打ち上げ花火も大事ですが、これからはその帰ってくる人たちと繋がり、また来たいというファンをどう作っていくかが大事だと思っています。一発の花火はそれだけの成果はありますが、それが継続しなかったり、リピーターに繋がらなかったりすることを考えると、安心感、おかえり感、変わらない景色や雰囲気을大事にしたいと思います。全国から来てくださっている方の小さい頃に思い浮かべた原風景のようなものが、柴又のまちにまだ残っているというところに安堵感があると思うと、アフターコロナだからこそ、不易流行ではないですが、変えてはいけないところと変えていかなければならないところを見極めていくことが大事だと思っています。

委員： 川甚本館跡地をインパクトのあるものにするのは、良いことだと思います。お寺の棚経で矢切の渡しに行きますが、歌にまで歌われた矢切の渡しがこのような感じでは、観光客はがっかりしてしまうのではないかと思います。

3週間くらい前に伊勢神宮に行ってきました。駐車場から伊勢神宮まで歩くと20分くらいかかるので、とても長いのではないかと思っていましたが、長く感じませんでした。おいしいスイーツなどの食べ物、小物屋さん、食事屋さん、横丁など色々な見所があって、ちょっと食べられるようなものもたくさんありました。トイレや喫煙所などの案内表示も、目立たないように配慮しながら設置されており、とても良いと思いました。

川甚跡地には、バス用の大きい駐車場は欲しいと思いますが、その3分の1でも、大正ロマンではないが横丁のような店があると面白いと思います。そして、観光バスの駐車場にはきれいなトイレを整備してほしいと思います。

山本亭までの道が寂しいので、区が所有する土地にちょっとした食べ物を売っているところなどがあると観光客を飽きさせないのではないかと思います。

委員：区が所有する土地の件ですが、まだ3分の2は取得できていない状況ですが、あの土地は防災公園として活用するというので買ってもらったものです。別の建物は建てられないようになっています。今のところは更地にしているので、イベントなどには活用できますが、有事の際に観光客が避難する場所にもなる防災公園として使うということで土地の所有者の方に納得していただき区が取得した経緯があります。

委員：区としては残りの土地も取得していく意向はあります。約10年前に3分の1を公園用地として取得しました。帝釈天から寅さん記念館にショートカットする道など、いろんな活用が考えられます。相手のあることですので、残りの土地の取得時期などはこれからです。

委員：例えば、土日だけテントを建てて観光客向けの物産販売を行うなどできれば、新しい通りになるのではないのでしょうか。

委員：イベントという形であればできると思います。今年の寅さんサミットは、映画の撮影をした24の地域に参加していただきました。柴又に来たいという思いで参加してくれたのだと思いますので、そういう気持ちを大事にしなければいけないと思っています。イベントで活用する方法を考えると良いです。駐車場にするだけでなく、歩いて回遊してもらうきっかけをつくるのが大切だと思います。

昔の宵まつりではないですが、夜のイベントを増やしていきたいと思っています。夜がないと寂しいと思います。先日の寅さんサミットでもお客様にお山が寂しいねと言われてしまいました。お山にも協力してもらってやっていきたいと思っています。

委員：先代住職が表現した「日本人の心のふるさと」のイメージを崩したくないと思います。

委員：区として川甚跡地の活用を検討していく上で、第一に考えたのは、ここに川

甚があったということ、柴又の歴史文化、そういうものをいかにして残すか、そして、経済活動としていかに集客ができるかということです。そうすると駐車場はスペックとして必要になると思います。今後の観光のあり方としては、団体旅行が減って個人旅行が主となるかもしれません。そのような中で、道の駅というのが各地にあります。人が集まっています。観光というキーワードに地域の産業として伝統産業や商業、食べ物、地元の野菜の販売などを掛け合わせ、地域内でうまく経済を循環させていると感じます。そのような循環ができるようになれば、地域経済も発展していくと思います。皆様から色々なお話をお伺いし、そういったことに繋がるご意見をお聞きできたと思います。

川甚という名は残した方が良いというご意見は、なるほどと思いました。川甚という場と名前を残すことで、歴史や文化が心に残るのではないかと思います。貴重なご意見をお聞き出来て、大変ありがたく思っています。

宇野会長： 柴又の歴史文化を活かしつつ、集客できるような施設にしていかなければいけないということですね。本日は1回目ということですが、今後、回を重ねていくごとに具体的に何を検討していくのか決めなければいけないと思います。今日は皆様のお話を率直にお聞きしてお考えが分かりました。次回以降も貴重な意見をいただきながら進めていきたいと思っております。いただいたご意見を踏まえて、次回検討会でさらに議論を深めてまいりたいと思っております。

(4) 検討会の開催スケジュールについて

事務局より、資料5について説明

宇野会長： ただ今の事務局からの説明につきまして、ご質問等ございますでしょうか。それでは、これをひとつの目安として今後の検討を進めてまいります。

4 その他

宇野会長： 本日の議題は以上ですが、この他、皆様から何かございますでしょうか。

委員： 正月も川甚跡地の工事は行うのでしょうか。12月7日に正月に向けた会議があるので、それまでに分かるとうれしいです。

事務局： 確認して、会議までにお知らせいたします。

5 閉会

宇野会長： 他にご質問がないようですので、以上をもちまして、本日の検討会を終了させていただきます。皆様の精力的な議論により、柴又が更なる発展を遂げていくための礎となる検討会にしてまいりたいと存じます。今後とも、皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。